



ハケ・用水・わき水通信

NPO法人 府中かんきょう市民の会
 発行 2023年12月25日(月) No.48
 編集人 葛西利武 Tel.090-5564-5838
 H P http://f-env.sakura.ne.jp
 府中市市民活動センタープラッツ登録団体

ハケは野鳥たちの オアシス

野鳥観察会のお知らせ

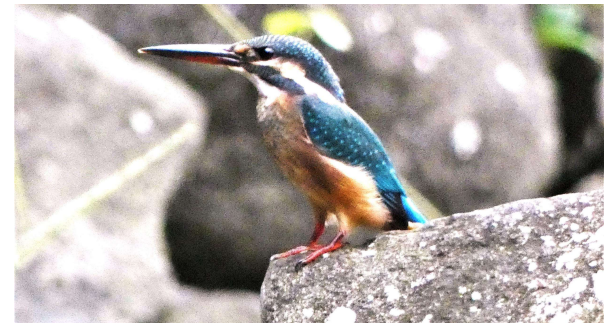
野鳥観察会を下記要領で開催する。2024年最初の活動である。案内人は田中香代子。参加希望者は西府崖線市川緑道「あずまや」に9:00までに集合。「あずまや」は、JR南武線西府駅下車、南口から市川緑道沿いに徒歩約7分。

事前申込み不要。天候が微妙なときは朝7:00~7:30の間に葛西(090-5564-5838)に問い合わせのこと。

日 程	令和6年1月13日(土) ※予備日14日(日)
集合場所	市川緑道「あずまや」 9:00集合 ※JR南武線「西府駅」下車 徒歩7分
観察時間	9:00~11:30
参加費	100円(保険料)
問い合わせ	田中 香代子 ☎ 042-366-0966
◎参加希望者は直接「あずまや」へ集合	



当会設置の巣箱で子育てするシジュウカラ



「清流の宝石」と呼ばれるカワセミ

右の写真はいずれも田中香代子氏が撮影。上の営巣中のシジュウカラは2022年3月21日。下の「清流の宝石」と呼ばれるカワセミは、ハケの用水付近で2022年9月6日撮影。ちなみに用水には、カワセミの餌であるザリガニ・小魚等が豊富であるが、人間界との距離が近すぎるため写真を撮るのは難しい。いずれも、一瞬のタイミングである。

葛西臨海・海浜公園での野鳥観察会

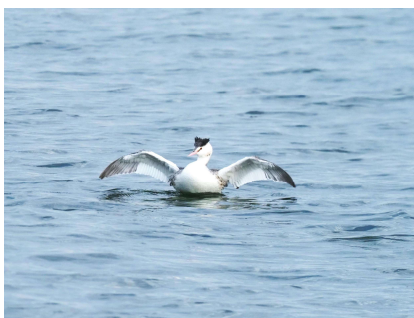
コロナ禍3年の中止を経て、10月23日に「バス見学会」を実施し、ラムサール条約に登録されている葛西臨海・海浜公園でバードウォッチングを行った。その際、「日本野鳥の会東京」に現地を案内していただき、その結果を代表の東 良一氏にご報告いただいた。なお、会報新年号(通巻91号/2024年1月10日)の6面には、バス見学会の記事を掲載してある。

秋の「バス見学会」で案内していただいた

「日本野鳥の会東京」代表 東 良一氏の報告



スズガモ雌雄



カンムリカイツブリ

日時:2023年10月23日(月)10:30-12:30
 場所:葛西臨海・海浜公園
 潮位(天文予測値):11時139cm、
 12時154cm

干潟は全く出ていませんでした
 記録で来た野鳥(個体数は概数です)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1) カルガモ 30羽(芦ヶ池、水路など) | 17) ハシブトガラス 30羽 |
| 2) キジバト 10羽 | 18) シジュウカラ 20羽 |
| 3) カワウ 4,000羽(東なぎさなど) | 19) ヒヨドリ 50羽 |
| 4) アオサギ 20羽(東なぎさなど) | 20) メジロ 20羽 |
| 5) ダイサギ 10羽 | 21) ムクドリ 50羽 |
| 6) コサギ 10羽 | 22) ジョウビタキ 1羽(芦ヶ池) |
| 7) イソシギ 2羽(西なぎさ) | 23) スズメ 50羽 |
| 8) ユリカモメ 10羽(東なぎさ) | 24) ハクセキレイ 15羽 |
| 9) ウミネコ 1,000羽(東なぎさなど) | 25) セグロセキレイ 1羽 |
| 10) アジサシ 2羽(西なぎさ) | 26) カワラヒワ 2羽 |
| 11) ミサゴ 4羽(西なぎさなど) | 合計26種 |
| 12) トビ 6羽 | |
| 13) ノスリ 1羽 | |
| 14) カワセミ 1羽(芦ヶ池) | |
| 15) オナガ 10羽 | |
| 16) ハシボソガラス 3羽 | |

剪定・整枝講習会

ツバキを対象とした剪定・整枝講習会を昨年引き続き開催する。講師は市が委託している園芸事業者、第一造園の植木職人さん。参加対象者は当会会員のみ。日程は2024年3月27日(水)9:00~11:00。参加希望者は自分の手帳にメモをお願いします。しかし、まだ3か月以上先のことなので、日にちが近づいたら皆さまに再度メール等によりお知らせする。

- スズガモは(㊤㊦写真)、10月中旬に20-30羽が飛来していますがまだ個体数が少なくいる場所も定まりません。当日は見つけられませんでした。北風が吹くたびに個体数は増えていき、来月中旬には1万羽前後になります。
- カンムリカイツブリ(㊤㊦写真)はまだ来ていません。12月になれば目立つようになり、2月下旬にピークを迎え例年1万羽を超えます。

巣箱の点検

年末恒例の巣箱6個の清掃と再取り付けを行った。詳細は以下。

○日 時／2023年12月2日(土) 9:00～11:30

○天 候／快晴

○参加者／浅田、葛西、竹内、田中、牧原
会員5人＋見学者1人の計6人

今年は営巣痕が1つだった。昨年、一昨年、の4個から見ると極端に少なくなっている。

過去を紐とくと、「巣箱」のことは「ハケ・用水・わき水通信(No.13/2014.9.24)」に載っている。したがって、巣箱作業にかかわっては9年となる。その間、常に最低2個は営巣痕があったが、今回は一番少ない。理由は地球温暖化の影響が考えられるが、不明だ。ちなみに、営巣痕のない巣箱には時々ヤモリ(※)がはいっていた。

そこで、以下のような「仮説」をたててみた。いま流に言えば、都会に住み着く野鳥は「アーバンバード」といってもよいだろう。外観も、よりきれいなものを好むようになっているのかもしれない。

当会の巣箱6個はそれなりに年輪を重ねて、古くなっている。そこで、来年は巣箱を設置してちょうど10年の節目となるので、すべて新しいものに取り換えようということになった。(※)漢字では「家守」と書かれ、ゴキブリ等を捕食するため有益な動物とされるが、毛嫌いされる方もいる。

落ち葉掃き

10月28日(土)に続き、2回目の落ち葉掃きを第一造園との協働作業で行った。ちなみに、第一造園市川さんの小学生のお子さんも参加された。

○日時／2023年12月9日(土) 9:30～11:30

○天候／快晴

○参加者／当会一浅田 葛西 佐藤(智) 田中 福島
5人

第一造園一馬場さん 田中さん 市川さん
親子の4人 計9人

ハケ上の西府町緑地周辺には、大量の落ち葉が見られる。当会はそれを指定のボランティア袋に詰め、府中市の「落ち葉の銀行」に16個渡す。

「落ち葉の銀行」とは、緑のリサイクルを進めるため市民と市の協働により実施するシステムだ。登録市民団体が公園などで収集した落ち葉を預金とみなし、回収した上で腐葉土化する。その後、預金した落ち葉の量に合わせて、腐葉土を引き出すことができる制度である。

第一造園には、落ち葉を緑地内設置のバイオネストに堆積する作業をお願いした。バイオネストは緑地で発生した自然材料だけでできているので、自然循環を生かした極めて簡単で持続可能な環境対策といえよう。また、そのなかでは生き物も育つ。ときには、カブトムシのサナギも見られるようだ。



①



バイオネストの整備中



落ち葉の銀行用のボランティア袋16個



②



④



左から福島、佐藤智恵子、浅田が袋詰め作業中



バイオネストを背に、全員で記念撮影

花壇づくり

当会の花壇がハケ上とハケ下にある。「落ち葉銀行」と「バイオネスト」の堆肥を利用している西府町緑地のハケ上には、ナノハナを。ハケ下は当会物置があるエレベーター横で、そこには市提供のノースポールとナデシコを植えたが徐々に開花が始まっている(2023年12月中旬現在)。ご観賞いただければ幸いです。

①巣箱取り付け中の牧原 ②巣 ③ヤモリ
④作業を終えて記念撮影(浅田撮影)